

～あなたは成長し続けていますか～

あなたは今自分自身の内側の足並みがそろっていますか？頭が考えていること、体が思っていること、行動していることが一つですか？これがなかなかうまくいきません。「こうしたい」と思ってもなかなかやる気がでない、実際やっていると、頭で考えていたことよりは「欲」のほうが先に出て、最初はよい思いだったのに最終的には自分のためだったなんてことはありませんか。私たちの心は外面的要素だけを変えてもいけません。だから世の中では「努力しろ」というのです。「一所懸命」という言葉を知っていますか。これは、昔武士が、自分に任された土地を命懸けで守るということでした。しかし最近では、命懸けというより「まっ、がんばる」「～的」なのです。本質を少し削ってしまう、現代はそういう風潮なのです。これが「一生懸命」です。「一生懸命」を「一所懸命」に戻す必要があります。そしてその中で大切なことが「成長し続けているか」ということです。（ヤコブ1：2～8）何を一所懸命にがんばれと言っているのでしょうか。それはあなたの人生の中で大変な困難や苦しみがおきたときに、「喜びと思う」（2）ということ。それは「その忍耐を完全に働かせると、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となる」（4）からです。それをどう実践したらよいかを教えたのがイエス様の人生でした。彼は苦しいとき、悲しいとき、わざわざ逆を選びました。嫌われた人のところにいたり、右の頬をぶつものには左の頬をもさしださないと教えたり、彼は、私たちにどういうふう生きるかを教えました。そこから欠けたところのない人になるからです。では成長しないと私たちはどうなるのでしょうか。死んでしまうのです。古いものを壊して新しくするから成長なのです。私たちの体は日々新しくなっていますが、私たちの「考え」が新しくないのです。（1ペテ2：1～8）私たちが成長するためには、何のために生きるかを知らなくてははいけません。私たちは一所懸命、①**悪いものを捨てる**。そのためにイエス様はどう生きるべきかを教えたのです。「ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」（1ペテ2：1、2）悪意は生まれたばかり子供は持っていません。私たちの中に、「怒られた」「～のために被害を受けた」という記憶があるからです。これが悪意の根源です。だからこれをためてはいけません。こういうものに悪い物をくっつけると私たちの内側が悪いものだらけになってしまいます。人が私たちに言ってくれることは悪いことではありません。しかしそれが記憶置換され、それが傷となって残っていくと、傷つきたくないために、防衛策として相手に対して悪い思いをもってしてしまうのです。それが続くとごまかします。偽善をするのは、悪くなかった物があなたの中に入ったら悪くなったからです。武士達が自分の土地を悪い者が入らないように守ったように、私たちの中に悪い物が入ってこないように一所懸命管理しなくてははいけません。神様は私たちに体を管理するように言っています。だから悲しいこと、嫌なことがあった時に、神様に祈れと言われているのです。自分の内側と闘わなくてははいけません。そして②**新しいものを取り入れる**。（エペ4：13～16）自分の役割がわかっていますか？そうでないと自分のやっていることがおろそかになってしまいます。人の言葉に右往左往してしまう人は、わかっているからです。逆に自分の意見は正しいと思って人の言葉が聞けない人もよくありません。自分の役割が分かっている人は、人ががんばっていることを受け入れられます。ピーター・ドラッカーという人は、13歳の時教会で先生に「あなたがなくなった時、どう言う人と言われたいか」と聞かれました。そのときに、先生は「今はわからないかもしれないが、50歳までにそのことを確立しなさい」と言いました。そして彼は真剣に考え「マネジメントの出来る人と言われたい」とたどり着きました。そして50歳の時にはそのことを確立していました。だから私たちには期限があるのです。私たちは生きている間に、自分の人生を考えなくてははいけません。自分の目的を果たすためにあなたはどこに進むのかわかっていますか。イエス様はどういう人かを見て、自分にそれがいないなら、そこから新しい物を取り入れてください。考えることをやめたら人は人ではありません。私たちは、自分は見えていないのです。あなたの顔色を見て下さい。「キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」（16）愛のうちに建てられていれば、「あの人はすごいから、立派だよ」なんて思いません。役割がわかっているならばその人の役割を受け入れ、尊敬し、自ずと自分の役割もわかってきます。会社の中で社長と社員はどちらが偉いのでしょうか。これはどちらが偉いというわけではなく、ただの「役割」です。だから隣の人と比較しないで下さい。（詩127：1～2）あなたが役割に気づき、古い物を捨てていけば自然と成長しています。（詩編1：1～4）「時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える」（4）栄えるというのは、その人が任された領域で幸せになるということ。だからこそ古い物、あやまった概念を捨てて新しい物を取り入れてイエス様と一緒にあなたの家を建ててください。そうすればあなたの建てた人生が、多くの人が休めるようになるのです。「一所懸命」あなたの心を守り、イエス様と一緒にすばらしい家を建てていきましょう。（要約者：岩崎祥誉）